

# ロールプレイ「食物依存性運動誘発アナフィラキシー」 解説（養護教諭対応）

平成 27 年度アレルギー・アナフィラキシー対応研修会資料

## 【解説】

A) 発見：食物アレルギー症状であることに①気づく、②観察、③人を呼ぶ

注 1-1. 「ちょっと気持ち悪い」

- ・普通、「胃腸炎」、思春期の児童生徒なら「起立性調節障害」、夏場なら「熱中症」等を考える。
- ・全教職員が、A君が食物アレルギー、アナフィラキシーがあり、エピペンを処方されていることを常に念頭に置いておく必要がある。

注 1-2. 「お腹痛い、咳」これで気が付くべき。

- ・腹痛：胃腸炎、消化不良、排便前等の消化器の症状。  
咳：かぜ等の感染症や気管支喘息など呼吸器の症状。  
ウイルス感染症で、消化器の症状、呼吸器の症状、熱などが経過の中で重なっておこってくることはあるが、急に同時にということは少ない。
- ・食物アレルギーを持っている、食後に起こってきていることから、食物アレルギーを考える必要がある。
- ・食物アレルギー症状の既往がない児童生徒でも、食後の運動時にアナフィラキシー症状を初めて訴え、食物依存性運動誘発アナフィラキシーを発症することあり、全職員が知っておく必要がある。

注 3. 咳き込み

- ・咳：「犬が吠えるようなせき、持続する強い咳せき込み、のどや胸が締め付けられる、声がかすれる、息がしにくい、ゼーゼーする呼吸」は緊急性が高いアレルギー症状

B) 準備：アレルギー症状（アナフィラキシー）に対応する準備

注 5. アレルギーがわかったら

「学校生活管理指導表」「緊急時対応個別カード」「緊急時対応経過記録表」、エピペンの準備、AEDの準備、内服薬の準備

①保管場所の確認手段として緊急時個別対応カード等を準備する（通常は教室）

②エピペンの保管場所をしっかりと決めて共通理解：

- ・学校なら職員室、教室のどこにと決めておき、全職員が共通理解しておく。
- ・児童生徒のカバンでも良いが、カバンの置き場所、カバンのどこにエピペンが入っているのか

を決めておき、本人も含め共通理解しておく。本人がカバンの管理できないのなら難しい。

**E : アナフィラキシー、緊急性が高いアレルギー症状の可能性高いと判断**

**E : (ver.1 B先生に準備を依頼する場合)**

「Aはアナフィラキシー、緊急性が高いアレルギー症状が考えられます」

「B先生、『緊急時対応個別カード』『緊急時対応経過記録表』、AEDを職員室から、エピペンを教室（の後ろのドアを入れてすぐの一番端、上段にあるA君の鞆の外側のポケット）からとってきてください」

**(ver.2 ここで準備を依頼せずに、B先生と一緒に戻る場合)**

C) 対応 : 「緊急性が高いアレルギー症状」の判断と対応

注6.

①「緊急性が高いアレルギー症状」5分以内に判断し、「エピペン」投与、救急車要請

・緊急時対応の共通理解

「緊急性が高いアレルギー症状」時の「エピペンを打つ」、「救急車を呼ぶ」の共通理解

・教職員の「エピペン」投与

アナフィラキシーの救命の現場に居合わせた教職員が、エピペンを自ら注射できない状況にある児童生徒に代わって注射することは、反復継続する意図がないものと認められるため、医師法（第17条）違反には当たらない。

・全職員の「エピペン」投与

「エピペン」は全職員が打てるように研修、日ごろから練習、シミュレーション。

「エピペン」投与は怖くない（副作用はほとんどない）、何もせず、見ている方が怖い。

②「エピペン」投与以外の対応

・ぐったり、意識もうろう：血圧低下の可能性

→臥位、下肢挙上。

・嘔気、嘔吐：吐物による窒息の危険性

→顔、体を横にむける。

・呼吸苦しく、臥位になれない

→上半身を少し挙上し、よりかからせる。

・反応なく呼吸がない：心肺停止

→心肺蘇生開始、AED準備

**E : 症状を把握（意識障害、呼吸困難）**

**緊急性が高いアレルギー症状であると判断**

**(Aの下肢挙上)**

E : (※B先生に準備を依頼) (C先生に連絡を依頼)

「B先生、『緊急時対応個別カード』『緊急時対応経過記録表』、AEDを職員室から、エピペンを教室(の後ろのドアを入れてすぐの一番端、上段にあるA君の鞆の外側のポケット)からとってきてください」

「C先生、救急車を呼んでください、あと校長先生と他の先生も呼んでください。保護者にも連絡してください」

D) 連絡 : 注7.

①救急車を要請する : 緊急性が高いアレルギー症状あれば速やかに

②管理者を呼ぶ : 不在でも、他の職員で対応できるように

③保護者への連絡 : ここに手間取らない。緊急性が高いアレルギー症状あれば、保護者の許可を待たない

④さらに人を集める(校内放送)

C : (救急車を要請)

「救急車をお願いします」

「〇〇町〇〇番地の〇〇中学校のグラウンドです」

「食物アレルギーのある、エピペンを処方されている1年生の男子生徒が給食後の体育中に、嘔気、咳き込みがあり、ぐったりしており、アナフィラキシーをおこしています」

「私は、教師のCと言います、何かあれば〇〇〇に電話ください」

(校長先生呼ぶ、保護者に連絡、他の先生も呼ぶ)

C) 対応続き :

B : 「エピペンもってきました」(「学校生活管理指導表」「緊急時対応個別カード」「緊急時対応経過記録表」、エピペン、AED、内服薬を持って到着)

E : 「B先生、Aの右の太ももを押さえてください」(B先生にエピペン投与の介助を依頼)  
(エピペン投与) エピペンの打ち方を思い出してください。

F : 「〇時〇分、右の太ももにエピペンを注射しました」(「緊急時対応経過記録表」に経過記載)

上手く対応すると

A : 「しんどいの少しまし」(呼吸が楽になり、受け答えもしっかりしてくる)

F : 「呼吸が楽に、受け答えしっかりしてきた」(経過記載)

救急車到着